

令和7年4月22日

滋賀県内経済情勢報告

(令和7年4月判断)

1. 総論

【総括判断】 「緩やかに持ち直している」

項目	前回 (7年1月判断)	今回 (7年4月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

(注) 7年4月判断は、前回7年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項目	前回 (7年1月判断)	今回 (7年4月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	6年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	6年度は増益見込みとなっている	6年度は増益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善や、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、景気を下押しするリスクとなっている。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向がみられるものの、物価上昇の影響により、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は、物価高により客単価は上昇しているものの、来店客数は減少しており、前年並みとなっている。

ドラッグストア販売は、食料品や医薬品の売れ行きが好調となっており、前年を上回っている。

ホームセンター販売は、物価高による客足の減少がみられており、前年を下回っている。

家電大型専門店販売は、エアコンなどが好調であり、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を上回っている。

観光動向は、国内旅行を中心に客足が堅調であり、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 物価高の影響により客単価は上昇しているものの、節約志向は強くなっており買い上げ点数は減少している。
(百貨店・スーパー)
- 近隣店舗との競合が激しくなっているうえに、購入頻度の高い品目ほど低価格の商品が選ばれる傾向となっており、売上は伸び悩みの状況。
(コンビニエンスストア)
- 食料品は引き続き好調であるほか、足下では花粉症対策商品の需要も旺盛となっており、来店客数も増加傾向。
(ドラッグストア)
- 物価高により客単価は上昇しているものの、競合店との競争により来店客数が減少しており、売上は前年を下回っている。
(ホームセンター)
- 厳しい寒さが続いたことでエアコンの売上が好調となっており、特に省エネなどの高性能な機種がよく売れた。
(家電量販店)
- 認証不正問題の影響が和らぎ、納期が短縮傾向にあることから、販売ベースで増加している。
(自動車販売店)
- 国内の個人旅行を中心に客室稼働率は堅調に推移しており、足下ではインバウンドも増加しつつある。
(宿泊)
- 値上げの影響により客単価が上昇しているものの、来店客数は減少傾向となっており、売上は横ばいとなっている。
(飲食サービス)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数（生産）は、半導体製造装置の需要が旺盛である「生産用機械」や、化粧品を含む「化学」が引き続き高水準で推移していることから、生産活動は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 半導体製造関連について、台湾や中国向けを中心に需要が旺盛となっており、引き続き好調。
(生産用機械)
- ドラッグストア向けの化粧品の販売が堅調であることから、ドラッグストア向け製品の生産を増加させている。(化学)
- 一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響はほとんど解消されており、自動車向け部品の生産量は認証不正問題発生前の水準にまで戻ってきている。
(鉄鋼)
- 船舶向け部品について、造船市場の回復に伴い受注が増加している。なお、足下では原材料やエネルギー価格の高騰分について販売価格へ転嫁できる環境が整っていることもあり、順次一定の値上げを実施している。
(汎用機械)
- 電気自動車市場が低迷しており、電気自動車向け部品の受注は低調となっている。
(金属製品)

■ 雇 用 情 勢 「持ち直しつつある」

新規求人数は、前年並みとなっており、有効求人倍率も、概ね横ばいで推移しているほか、法人企業景気予測調査（1-3 月期）では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 生産現場の人員に不足感があるなか、継続的に中途採用の求人を出しているところ、一定の応募はあるが、ミスマッチも多く、当社が求めているような人材の応募は少ない。また、新卒採用についても、優秀な人材は大手企業に流れる傾向が強く、計画通りの採用には至っていない。 (化学)
- 製造現場では人手不足となっているが、意欲のあるパート従業員を正規社員として登用するなど対応している。 (食料品)
- 製造部門は募集をかければ一定の応募はあるが、システムエンジニアなどの専門職種は募集をかけても応募がなく、不足感の解消には至っていない。 (金属製品)
- 現場監督となる技術職が不足しているため、募集をかけているが、いい人材は大手に取られており、不足感の解消は難しい状況となっている。 (建設)
- 繁忙期では、グループ会社との連携やスキマバイトサービスを活用するなどして、不足分を補っている。 (宿泊)

■ 設 備 投 資 「6 年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」7 年1-3 月期

6 年度の設備投資は、全産業で 23.2%増（対前年度増減率、以下同じ。）の見込みとなっており、産業別では、製造業で 34.5%増、非製造業で 12.5%増の見込みとなっている。

■ 企 業 収 益 「6 年度は増益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」7 年1-3 月期

6 年度の経常利益は、全産業で 6.3%（対前年度増減率、以下同じ。）の増益見込みとなっており、産業別では、製造業で 5.0%の増益見込み、非製造業で 11.3%の増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住 宅 建 設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数で見ると、分譲住宅などが減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 公 共 事 業 「前年を上回っている」

前払金保証請負金額で見ると、市町などで増加していることから、全体で前年を上回っている。

■ 企 業 倒 産 「件数は前年を上回っており、負債金額は前年を下回っている」

倒産件数は前年を上回っており、負債金額は前年を下回っている。

■ 企 業 の 景 況 感 「「下降」超となっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」7 年1-3 月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては「上昇」超の見通しとなっている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455

財 務 省